



堂内に響くお念仏の声

大遠忌はじまる
宗祖のおこころ頂き、被災者偲ぶ

4月9日午前10時、大太鼓が響くなか渡り廊下から御影堂まで縁儀が行われ大遠忌法要がいよいよ始まった。導師は大谷光真門主。光淳新門をはじめ24人の結衆など170人あまりの僧侶が出仕。宗祖御真影を安置する宮殿は、九具足と28の供物で荘厳された。今回の法要のために新しく制定された「宗祖讃仰作法第一種」によって勤行がおこなわれ、満堂の僧侶・門信徒の声が堂内に響いた。

法要終了後、新門さま・ご門主は、東日本大震災により失われた多くのいのちへの哀悼、そしてご遺族や被災された方々へお見舞いの思いを語られた。さらに宗祖のご苦労の上に、煩惱具足の迷いの人生を歩む私が、真実に出遇うことができたこと、被災者支援の思いとともに南無阿弥陀仏のお念仏を申すことをお勧めにいられた。

今回の法要にあわせて、本願寺会館跡に仏教博物館である龍谷ミュージアムが開館。元植柳小学校では土産物や仏具などを販売する御縁まちマルシェ、改装された伝道院には「テーマ館」が開設された。

和歌山教区からは、まず10日に和歌山東・和歌山北・日高・紀南の4組約400人が参拝。参拝者の熱気に戸惑い、人混みに疲れた様子を見せつつも、本山でのご勝縁に出遇えたことを喜んだ。

鷺森テレホン

紙上法話

北條法聖師

(和歌山北組慶圓寺住職)



「火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」

このご文は歎異抄後序にあります、親鸞聖人の仰せの言葉として著者唯円様が書き残されたお言葉であります。

3月11日午後2時46分に襲った東北地方太平洋沖地震は瞬く間に私たちを恐怖のどん底におとし入れました。

ニュースで見る地震や津波の様子は、この世の終わりと見間違えばかりの地獄絵図でまさしく火宅無常の世界を、私は言葉でなく身



「火宅無常の世界」身をもつて味わう

が身に寄り添い、悲しからうの、寂しいからうのと抱いて抱えて捨てきれんという阿弥陀如来の本願力のはたらきを、親鸞聖人は「ただ念仏のみぞまことにておはします」と仰ったことではありません。

をもつて味わったことではありません。

手を合わせ念仏せずにはおられませんでした。

私達、和歌山に住む者は、津波と言えば、「稲むらの

「よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと」であります。

大谷光真ご門主は、著書「愚の力」で「心を滅ぼさない」と物ほ栄えない」(15

「豊かさ」と「利便性」を追求する「人間中心の考え方」に警鐘をならされておりました。

広島の原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返しませぬから」と刻んだはずなのに、また、過ちを犯して

火」を知らない者がいないと思いますが、この度の震災は、そんな過去の教訓も根底から覆された思いがあります。

また、安全、安心とされた原子力発電所はどうでしょう？

「よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと」であります。

思うようにならぬ世界に生まれたこの私共に、「たとひ身をもろもろの苦毒のうちには止くとも、わが行、精進して、忍びてつひに悔いじ(「讚仏偈」)」と我

24時間いつでもどこからでも法話が聞けます

和歌山教区内テレホン法話開設寺院

鷺森テレホン法話

073-422-0243

おにさん

こころの電話(海南組 西光寺) TEL.073-487-2430
 ヤングこころの電話(同上) TEL.073-487-0404
 こころの電話(御坊組 専福寺) TEL.0738-44-0874
 満願寺テレホン法話(紀南組 満願寺) TEL.0739-45-3078

鷺森テレホン法話(3分法話)
 みなさまからのお電話お待ちしております。

祖蹟と点描

親鸞聖人750回大遠忌法要

新企画

>2

◆半丈六の阿弥陀様

親鸞聖人が幼年期を過ごされたのは京都の中心から南にはずれた日野の里（現在の伏見区日野）でした。聖人の出自は、藤原北家の流れを汲む日野家の出身で、父有範公は朝廷に仕える身ではありませんでしたが、政治の中心を担うような華やかな家庭ではなかったようです。この地には日野家の菩提寺・

法界寺があります。平安時代後期の永承六年（一〇五二）に、聖人の六代前にあたる日野資業が最澄自作の薬師像を安置する薬師堂を建立したのが始まりとされ、現在は「日野薬師」「乳薬師」として信仰を集めています。創建以来、阿弥陀堂をはじめ諸堂が整備され、七堂伽藍に輝く威勢を誇ったといいますが、後にたび



親鸞聖人稚児御影

重なる兵火に焼かれ、往時を偲ばせる現存の建物は阿弥陀堂のみとなっています。この阿弥陀堂には定朝作と伝える半丈六の阿弥陀如来像（国宝）が安置されています。

日野家菩提寺・法界寺ご本尊

慈愛に満ちた微笑み

ます。「丈六」というのは、仏像の法量を示す言葉で一丈六尺（四・八五m）の略語です。これは立像の高さで、坐像ではその半分、つまり「半丈六」（一・八尺）となります。「丈六」とは、

仏様のお徳は優れて高く、身長も人間の倍数であったとの信仰によるといえます。今、この阿弥陀様の坐像の前に座り、掌を合わせて尊容を見上げると、その大き

さに圧倒されるだけではありません。そのふくよかな面貌にうかぶ慈愛に満ちた微笑みを目の当たりにすると、ふと慈母の膝の上に抱かれる赤子の、安穩なる心境に思いを致し、慕わしく感じるのには私だけではないでしょう。「遙か昔、松若様（親鸞聖人の幼名といわれます）も、この阿弥陀様に掌を合わされたのだなあ」

と、そう思うとよりいっそう懐かしさが込み上げてきます。

◆宝形造の阿弥陀堂

この阿弥陀様を安置する阿弥陀堂（国宝）は、重層宝形造・檜皮葺で、五間四方の大堂です。当時の阿弥陀堂建築は、大別して二つに分けられるようです。一つは、主に修行を目的として造られたもので、もう一つは、この世に阿弥陀様の

極楽世界とその莊嚴を想像して造られたものです。前者は天台宗の四種三昧の一つである常行三昧を修する常行堂に始まり、後者は平等院の鳳凰堂（一〇五三年創建）にその例をみることでできます。法界寺の阿弥陀堂は前者の常行堂の形式にあたります。親鸞聖人が九歳で出家し、その後二〇年間にわたる比叡山での主だった修行が常行三昧堂の堂僧であったことを思うと、幼い頃にその修行を目的の当りにして育った影響を考え合わせることができるのではないのでしょうか。

法界寺の裏手には、今も日野家の廟所があり、そこには父有範公、母吉光女の墓が大樹に護られるようにしてのこっています。

親鸞聖人がこの日野の里でお生まれになったのは、今から八三八年前、承安三年（一一七三）のことでした。

（龍谷大学非常勤講師

岩谷教授）

親鸞聖人がご誕生になり、幼年期を過ごされた日野の里にある日野誕生院本堂



御坊組 親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要営む

可愛い歌声で参拝者を魅了

御坊組では、3月27日に日高別院と合同で、親鸞聖人750回大遠忌お待ち受け法要を厳修いたしました。

東日本大震災の直後であり、「もう少し時期を遅らせてはどうか」という意見もありましたが、反対に「こんな時期だからやるよ」と強い励まし

ましの声を頂きました。役員会で種々協議の結果、いくらかの不安を抱きながら、予定通りの行事を進めることになりました。

当初から、過疎化の進むこの地域で、どのような事ができるのか、何をすることが大切か考えた結果、学校や幼稚園の休みになるこの時期に、都会へ出ていく子どもやその両親も含めて、三世代揃ってお参りするよう楽しい催しにしようと考えました。

午前10時からの稚児パレードには、大阪や関東から



御坊組 組長 三原 義弘



も、稚児160人とその保護者250人・法中と役員ら総勢450人によるパレードが行われました。



日頃は静かな日高別院の周辺ですが、この日は、親鸞様を称える声やアナウンスが流れて、賑やかな雰囲気になりました。

午後1時半からは、お待ち受け法要と記念行事が行われ、満堂の参詣者と一緒

から、祝辞が伝達され、組長挨拶と、総代会長の決意表明と続き、記念法話が行われました。

講師はシンガーソングライター・梁瀬奈々さん。若くして大病を患い苦しい闘病生活を通して親鸞様のご苦勞を身近に受け止められた方だけに、その言葉使いやしぐさの端々に、温かい優しい思いやりの心が伝わってくる感じでありました。

この日は特に、神戸の大震災の被災者の心に寄り添うように詠まれた歌を中心に披露していただき胸が一杯になりました。

参詣の方々が一緒に、平素温かい心の通い合う社会の実現に努めることの大切

さを学ばせていただきました。

この時期に強行したことを納得するご勝縁であつたと思います。

50年後の800回大遠忌法要は、この日の稚児とその両親が中心に進められることでしょうか、その日に向かってしっかりと大切な心を受け継いで欲しいと願っております。

1. 目標

御同朋の社会をめざして 一つれもていこら 御同朋一

2. スローガン

「ともに いのち かがやく 世界へ」
—おかげさまで ありがとう—

3. 基本方針

「基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）は、教団や社会の現状から目をそむけず、み教えに問い聞きながら、同朋教団としてのあるべき姿・御同朋の社会の実現をめざす運動である」ことを体して、教区内に基幹運動の推進をより一層展開し、全員聞法・全員伝道を実現すべく、門信徒・僧侶の一人ひとりが伝道教化活動に取り組もう。

4. 研修テーマ

「いのち きびしく あたたかく」
—いのちの尊厳を、御同朋の視点から、
そのきびしさとあたたかさをともに学んでいく—

活動方針

「親鸞聖人750回大遠忌法要」を機縁として、今一度、ご消息のお心を体した取り組みをすすめよう。

工夫をこらして寺院活動を（門信徒会運動）

全員聞法・全員伝道のもと、組やお寺での話し合い法座や文書伝道を実施するなど、創意工夫をこらして、寺院活動の充実をはかり、みんなが支える開かれたお寺づくりをしていきますよう。（門信徒会運動）

親鸞聖人の生き方に学ぶ（同朋運動）

御同朋・御同行と願われた親鸞聖人の生き方に学び、人権・いのちの尊厳を守る取り組みをすすめますよう。（同朋運動）

お仏壇を中心とした生活（わたし・家庭）

阿弥陀さま（お仏壇）を中心とした生活を通して、私たち一人ひとりが念仏申す営みを大切にし、念仏のこころを次代に家庭に社会に伝えていきますよう。

① 組の基幹運動充実
【組基推】門信徒と僧侶・寺族がともに歩む基幹運動態勢の充実をはかっていく。

② み教えの学びと勤式
【教学伝道】一人ひとりが親鸞聖人のみ教えを学ぶとともに、勤式・法式の意義を問うていく。

③ 平和と同朋精神
【同朋運動】和歌山同朋会発足より62年を迎え、「念仏者」として、差別・被差別からの解放、平和を尊び、同朋精神をひろめていく。

④ 「人」の育成
【人材育成】次代を担う「人」の育成に向けて、基幹運動推進者の養成に努める。

⑤ 連研の充実
【連研】連研の充実と門徒推進員の養成をはかる。

⑥ 文書伝道活動
【文書伝道】教区の情報発信としての広報活動や文書伝道活動に取り組む。

⑦ 仏縁づくり活動
【教化活動】仏縁づくり活動や門徒間の繋がりを深めるため、組や寺院を中心としたキッズサンガや門信徒のつどいなどの取り組みをすすめる。

⑧ 人権・福祉
【人権福祉】人権・福祉をはじめとする社会問題への関わりに努める。

和歌山教区基幹運動推進委員会では、4月27日に年次総会が開催され、2011（平成23）年度の和歌山教区基幹運動計画（案）について審議された。また、宇野哲哉中央基幹運動推進相談員が、今年度の宗門の取り組みについて解説。2006年から続く「基幹運動総合基本計画」が最終年度を迎える。
和歌山教区では、門信徒と僧侶・寺族の一人ひとり、そして一ヶ寺一ヶ寺にのつての基幹運動とは何かを焦点に運動計画を策定した。

連研修了者研修会

門徒推進員養成中央教修受講の長年の課題であった年齢制限が撤廃され、本年4月1日より、これまでに地方連続研修会(地方連研)を修了した全門信徒を対象に開催されることとなった。



これを受け、教区基幹運動推進委員会では、2005(平成17)年度より研修の充実、諸問題の改善に向け休止していた「連研修了者研修会」を再開することとなり、去る3月5日(土)に中央教修受講奨励を重点に置き、連研修了の意義を再確認する研修会

として、よそおいを新たに開催された。

当日は各組から連研修了者39人が参加。連研中央講師の竹田嘉円師より門信徒会運動並びに連研と門徒推進員の歴史について学んだ。

また、教区門徒推進員の藤井楊造さんと内田孝さんから中央教修受講の体験発表とその後の活動状況について報告。その報告をもとに、「組連研を修了して」と題し、班別で話し合いが行われた。引き続きいてのパネルディスカッションでは、連研での学びを今後いかに繋げて行くかが話し合われた。今回スタッフとして教区門徒推進員12人が参画し班別話し合いの司会などを勤めた。

飯盒での「飯炊き」に挑戦

寺院子弟研修

2011年3月28日(月)から29日(火)にかけて、和歌山市立少年自然の家において寺院子弟研修会が組織教化部会主催にて開催されました。

初日は飯盒炊爨でした。普



足湯にほっこり

ビハール研修

去る3月8日(火)ビハール和歌山主催で、「足湯を通

段は、ガスキッチンで調理することに慣れていないため、かまどで火をおこして調整しながらの調理は少し難しかったようですが、みんなで役割を



しての「よりよい」のテーマのもと研修会を開催した。被災地NGO協働センター代表の村井雅清さんを講師に迎え、足湯のぬくもりとそこから生まれる人と人との触れ合いや会話など心あたたまる相乗効果について実例を紹介いただいた。

その後実際に足をお湯につけて「足湯」を体験し、人肌に触れることで温もりを感じ、気持ちほぐすことの大切さを実感した。

参加者は、10人でした。

分担任してカレーライスをつくりました。夕食後は、藤岡大祐勅式指導員の指導のもと「正信念仏偈」の練習をしました。

二日目は、施設内の山を歩きながらアスレトリムをまわりました。共同生活を送るなかで、さまざまな体験ができた、楽しい二日間でした。参加者は総勢14人でした。

鷺森子ども会

春の遠足

2010年度から開校した

鷺森別院子ども会では、3月30日(水)に春の遠足を実施し、バスにて京都へ行きました。

午前は本山、西本願寺を参拝し、親鸞聖人750回大遠忌法要の準備が進められている御影堂を見て、その大きさに驚かされました。

午後からは、東映大秦映画村にて持参したお弁当を食べ、班ごとに村中を散策しました。

参加者は40人でした。

和歌山西組キッズサンガ

去る4月24日和歌山市東松江、正善寺(幸馬昌史住職)で、組内から29人の子どもたちが集合し、第4回和歌山西組キッズサンガ(子どもの集い)が開催された。今回も、花まつりを兼ねて春期の開催となった。

開会式のあと、お勤めと記念撮影。花まつりでは、誕生仏に甘茶をかけてお祝いをした。

続いてお餅つきを体験。出来たてのお餅を誕生仏にお供えをして子どもたちもいたいた。

昼食には、スパゲッティに舌鼓をうち、休憩の後、体を使った遊びやゲームで盛りあげた。続いて腕輪念珠作りを体験。



最後にビンゴゲーム。お菓子の景品をもらい感想文を書き、記念写真を手に子どもたちは上機嫌で会場を後にした。

災害復興支援を決議 世界仏婦

5月16・17日、第14回世界仏婦大会が開催された。4年に1度の本大会は親鸞聖人750回大遠忌法要に併せ京都での開催。国内より3639人、各開教区より295人、和歌山教区からは90人が参加した。

参加者らは16日には大遠忌連夜法要に参拝、会場をパルスプラザに移し世界仏婦夕食

子どものつどいin本願寺 (児童念仏奉仕団)

来る7月29・30日の2日間、本願寺で「子どものつどい」が開催されます。和歌山教区少年連盟では、このつどいに120人が参加する予定です。

7月9日 平和のつどい

大震災被災者を偲ぶ追悼法要

今回で、第18回目となる平和を希う念仏者のつどいが、7月9日(土)午後1時30分から、鷲森別院本堂で開催される。

例年、全戦没者追悼法要と

して法要を勤修しているが、このたびは3月11日の東日本大震災で亡くなられた方々を偲ぶ追悼法要としてもお勤めすることになっている。

記念講演では、「宗教と平

交流会へ出席した。交流会には総裁様・新門様ご臨席、各国より多数の催しが披露され、国内・各開教区会員との交流を深めた。また、新門様・新裏方様ご夫婦に長男子がご誕生されたご報告に対し、会員一同お祝いの言葉が会場内に響き渡った。

17日世界仏婦大会、大会テーマ「世の中安穏なれ」。門

青親鸞聖人750回大遠忌法要記念大会

8月6日(土)・7日(日)に本願寺を会場に「安穏」をテーマに全国真宗青年の集い

主様・総裁様ご臨席のもと開会。記念対談に弁護士の大平光代さん、各開教区の体験発表が行われ、総会では代表者

会決議事項の報告が行われ、あらたに東日本大震災により国内外から今大会に参加できなかった方々へ思いを寄せるとともに、災害復興の支援に尽力する決議が採択された。次期大会は2015年5月30日・31日、カナダ・トロントで開催される。

が開催される。翌日には御影堂において青年を対象とした親鸞聖人750回大遠忌法要が勤修されます。

集いの参加費は3,000円で、宿泊等の詳細については、後日ご案内いたします。

お問い合わせ、申込は和歌山教区仏教青年連盟事務局まで。

仏教壮年全国大会

9月3日(土)に全国仏教壮年大会が本願寺御影堂で開催されます。

「朋友の輪を拡げよう」をテーマのもと、記念式典、記念講演、取組活動発表が行わ

れます。記念講演には、医師で著書「がんばらない」で有名な鎌田實さんが講演されます。

詳細は、和歌山教区仏教壮年会連盟事務局までお問い合わせください。

たすけあい募金

このたびの東日本大地震に伴い、すでにご承知のように地震・津波等により甚大な被害が発生し、多くの尊いのが奪われました。

和歌山教区では、救援活動に積極的に取り組んでいこうと3月14日に各寺院に義援金のご協力を呼びかけました。

5月31日現在で、教区内より6,335,532円が集まり、本願寺「たすけあい募金」に送金させて頂きました。今後とも、更なるご協力をお願い致します。

◆義援金送金先

口座番号 郵便振替 0091011124247
加入者名 和歌山教区教務所
※通信欄に「東日本震災義援金」と明記してください。

***** 教区だより ***** (6月~10月)

2011年 6月

- 1日 全国教誨師大会 (~2日・本山)
- 3日 少年連盟委員会
- 4日 勤式講習会
- 7日 仏婦総会・研修会
- 9日 少年連盟結成50周年記念大会 (本山)
- 11日 近畿ブロック保育連盟新任補任式 (本山)
- 17日 仏婦別院清掃奉仕
寺青連盟委員会
- 18日 近畿仏青研修会
- 19日 仏仕理事会
- 21日 近同推総会 (本山)
- 22日 中央基推委委員会 (~23日・本山)
- 29日 第13回全国布教使大会 (~30日・本山)

- 12日 門徒推進員代表者会議 (~13日・本山)
- 19日 第3連区布教使研修会 (~20日・滋賀)
- 23日 全国保育大会 (~24日・本山)
- 27日 同朋僧研・門信徒会運動事前研修会
- 29日 本願寺子どものつどい (~30日・本山)

8月

- 6日 全国真宗青年の集い (~7日・本山)
- 27日 第1・第3ブロック門信徒総研修会

9月

- 3日 勤式講習会
仏仕全国大会 (本山)
- 8日 布教団連続法座
- 17日 第2ブロック門信徒総研修会
- 18日 第31回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要 (東京)
- 28日 全国寺青野球大会 (~29日)

10月

- 1日 勤式講習会
- 31日 近畿ブロック寺婦研修会

7月

- 2日 勤式講習会
- 6日 矯正教化連絡協議会・評議員会
- 8日 布教団連続法座
- 9日 第18回平和を希う念仏者の集い

***** 別院だより ***** (6月~10月)

鷺森別院

【別院こども会】

毎月第4土曜 午前10時~12時
開催日 6月25日 7月23日 9月24日 10月22日

【別院婦人会・若さぎ会】

毎月1回開催 期日未定
※お問い合わせは別院まで (073-422-4677)

【常例法座】

毎月15・16日 午後1時30分より
6月 冬野正隆師 (奈良教区)
7月 大江智秀師 (東海教区)
8月 筑波敬道師 (山口教区)
9月 亀井真隆師 (兵庫教区)
10月 下間哲照師 (東海教区)

【総永代経】

6月19日 午後1時30分より
木下祐祥師 (大分教区)

【孟蘭盆会】

8月15日 午後1時30分より
筑波敬道師 (山口教区)

【秋季彼岸会】

9月22日~24日 午後1時30分より
朝枝泰善師 (安芸教区)

日高別院

【常例法座】

10月20日 午後1時30分より
経 智敬師 (熊本教区)

【永代経】

6月20日 午後1時30分より
植木政隆師 (大阪教区)

【秋季彼岸会】

9月20日 午後1時30分より
伊藤道雄師 (日高別院輪番)

【夏安居】

8月2日・3日 両日とも午前10時と午後1時30分より
講師 内藤知康 師
講題 「正信念仏偈」 講讃
会読 「信心正因」

◆今号から教区報を刷新◆

いつも教区報「鷺森」をご愛読いただきありがとうございます。教区報編集委員会では、教区内の皆様方にご愛読いただき、少しでも教化活動の一助となれば、との思いで編集に携わっています。今号から編集内容、レイアウトなどを刷新し、さらに読みやすい、内容豊かな紙面作りを目指していききたいと考えております。皆様方の感想をはじめ、各地域でのニュース、基幹運動への提言などがありましたら、当委員会へどしどしお寄せください。投稿をお待ちしております。

得度

山本泰士 (御坊組 常照寺)

教師

亀井道子 (有田北組 発願寺)
北口博一 (和歌山東組 蓮光寺)

逝去

河野信也 (平成23年4月23日)
有賀組 願正寺 衆徒

ご生前のご活躍ご尽力に感謝申し上げます。あげ、謹んで敬弔の意を表します。